



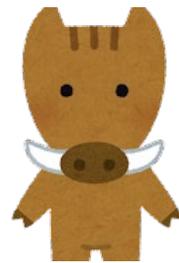
シカ革

とてもキメが細く、軽さ、表面のしなやかさ、耐久性などに優れています。
眼鏡やカメラのレンズ拭き（セーム革）としても用いられています。



イノシシ革

シカ革と同様に、軽さ、耐久性などもありますが、表面には3つずつの毛穴が開いている特徴があり、通気性にも優れた素材です。



“皮”は加工前のもの、“革”は加工後のものことだよ。

皮から革ができるまで（なめし加工）

1. 塩漬け



皮は毛が付いた状態で塩漬けにします。これにより腐敗を防ぎ、2か月ほどこのまま保管ができます。

2. なめし



汚れや塩分を落として毛を分離させた後の皮を、なめし剤と共に大きなドラム槽に入れ、グルグルと回転させます。

3. 乾燥



なめしたあとの革は、乾燥室でよく乾燥させた後、縮んだ繊維を平らに伸ばし、製品加工のしやすい状態にします。

4. 感触と状態



乾燥させた後は、驚くほどやわらかな手触りになります。銃で撃たれた穴があったり、傷や虫食いがあったり…。野生だからこそ、同じものは存在しないのが、獣皮素材の魅力です。

5. 染色



ドラム内で2日間ほど、革に写真の染料を染み込ませます。みんなに送った革の染料は環境にやさしいものが使われています。

6. 完成



こうして、皮が革へと生まれ変わります。実は、シカやイノシシの革を利用することが、シカやイノシシの命を活かすことにつながります。